元気っ子　Ｎｏ284 ながさわ保育園

園　長　　中　瀬　弦　偉

令和 3 年度がスタートしました。新たにこの 4 月からながさわ保育園に入園された新入園児の保護者様、お子様のご入園おめでとうございます。皆様の大切なお子様をしっかりとお預かりさせて頂きます。職員一同、心を込めて保育にあたらせて頂きますので、どうぞ宜しくお願い致します。

コロナウイルス感染症時代において、「世界幼児教育・保育機構（OMEP）」という国際機関では「乳幼児期の教育への権利は誕生と共に始まり、そのことは彼（女）らの可能性が最大限に発揮されるよう最大限の支援を受ける権利と繋がっている。このため、各国政府とその他の当事者たちは、目下の危機の中でも、豊かな機会を保障することで幼児教育・保育を強化しなければならない」という声明を発表しています。このことはコロナウイルス感染症時代においても、またその収束後の時代においても、我々当事者はどのように実現していけばいいのかを常に考えていかないといけません。

この声明文にある「乳幼児期の教育への権利は誕生と共に始まり、」という冒頭の部分について考えてみると、これは「乳児保育の在り方を考える」ということになります。かつて保育施設というものは家庭の代わりと考えられていたため、できるだけ保護者に近い形で保育をすることが望ましいと考えられてきました。しかし、少子化により、家庭内での子ども集団における経験の欠如、人口減少時代における人間関係の希薄化が危惧され、最近の研究では子どもは、社会的ネットワークや子ども集団の中で育てるべきだという考え方が主流になってきました。その根拠になる研究が示しているのは「思っていた以上に様々な点で乳児期から育っている部分がある」ということです。例えば、「原始歩行様運動」や「新生児模倣」「白紙論から過形成と刈り込み」などが脳研究によって明らかにされつつあります。

また、今後ますます重要なものとして社会的スキル（ソーシャルスキル）の育ちがあります。このことについては先月の「元気っ子」でも触れさせて頂きましたが、「感情のコントロール」「共感力」「実行機能」といった非認知能力が学業成績や将来の人生に影響しているということが様々な研究の中から明らかにされています。これらの基礎になる力が、乳児期から大人に見守られている信頼関係を基盤として、子ども集団の中の生活や遊びの中で育っていきます。このことが「乳児における教育」ということになります。つまり、教育される権利とは、教え込まれるものではなく、環境の中で引き出され、自ら育っていくことを保障される権利なのです。

このように考えていくと、我々大人の役割は、いかに子どもたちが自ら育とうとする力を存分に発揮できる環境を整えられるかにかかってくると言えます。保育園において、大人は子どもたちに何かを教えたりする指導者としての立場ではなく、あくまでも「支援者」でなくてはなりません。このことにしっかりとフォーカスし、令和 3 年度の保育をスタートしていきます。どうぞ宜しくお願い致します。